

飽くなき探求心！全国トップレベルの高品質トマト生産者

先進的農業経営者の部

〔氏名〕 にしむら ようすけ なつみ
西村 洋介・奈津美

〔市町名〕 佐賀市



1. 経営の概要（令和6年度）

(1) 労働力構成

区分	年齢	農業従事日数
本人(洋介)	43	300
本人 (奈津美)	43	200
父	74	180
母	71	150
雇用(年間)	2人	
雇用(臨時)	延べ 300人・日/年間	

(2) 作目別栽培面積等(単位:a、kg/10a、kg)

作目	面積	単収	生産量
トマト	25	7,531	37,655
米	450	-	-
麦	900	-	-
大豆	470	-	-

2. 農業経営のビジョンと戦略

(1) 農業経営のビジョン

施設園芸と土地利用型作物の複合経営による安定した農業経営を目指している。加えて、トマトでは食味が良く、高品質かつ高収量を実現し、より安定した所得の確保及び規模拡大を目指している。そのために、①科学的根拠に基づく栽培形態の確立、②天敵を導入し、化学農薬を減らす病害虫防除体系の確立、③ホームページや SNS 等を活用し販路を拡大に取り組んでいる。

(2) 短期的目標と長期的目標

【短期的目標】

- ・販売額をさらに上げていくため、現在の JA さが光樹とまと部会の平均反収の 1.5 倍を目指す。
- ・高品質かつ安全なトマトを生産するため、トマトの品質分析を行い、その結果を土づくりや栽培管理等に活かす。
- ・HP や SNS 等を活用し、県内外の販路拡大に取り組む。

【長期的目標】

- ・資材価格等の高騰が続いている状況にあることから、JAや県、市、農家などから中古ハウスの情報を収集し、中古ハウスを活用した規模拡大を目指す。

3. 経営発展に向けた取組状況

(1) 経営の経緯

農業大学校卒業後に、両親のもとで1年間の研修を経て、平成15年に補助事業を活用して20aのハウスを取得し就農した。当時、光樹とまを食べてその美味しさに感動し、「せっかく作るのだから、より美味しいものを作りたい」という思いで、食味や品質にこだわる『JA さが光樹とまと部会』に加入した。その後、高品質のトマトを生産するため、科学的根拠に基づく土づくりや栽培管理等を実践し続けた結果、『2025年第4回ソムリエ協会 全国トマト選手権 ラージ部門』において最高金賞を受賞した。

(2) 売れる農産物づくりの取組

生産面においては、高品質で良食味のトマトを消費者に届けるため、トマトの品質分析を行い、その結果を土づくりや栽培管理等に活かしている。また、安全性の高い農薬の活用や天敵昆虫の導入による農薬削減に努めるなど、安全・安心なトマト栽培に取り組んでいる。

販売面においては、妻が中心となり、ホームページやSNS等を活用した情報発信や飲食店にトマトを持ち込み営業するなど、県内外の販路拡大に取り組んでいる。

(3) 安全安心な農産物生産への取組

安全安心な農産物を消費者に届けるため、アザミウマ類やコナジラミ類など施設野菜の害虫の天敵である、タバコカスミカメを導入し、農薬削減に取り組んでいる。また、有機汚泥堆肥の活用など化学肥料を使用しない土づくりに取り組まれている。

4. 地域や集落における活動状況等

(1) 地域組織での活動

『JA さが光樹とまと部会』では、最年少ながら部会の役員を長年務めており、部会員の栽培技術向上や経営発展のため、研修会等の部会活動を牽引してきた。また、九州・沖縄地区農業青年クラブ連絡協議会の会長や佐城農業青年クラブ連絡協議会の役員を務め、若い農業者たちの先頭に立ち、地域農業の発展のために取り組んできた。

(2) 地元への貢献

佐賀大学と韓国の農業大学校が行う海外農家派遣研修において、韓国の学生の研修受け入れを行っており、地域の活性化にも貢献してきた。

(3) 担い手の育成

農大生や県庁職員の研修受け入れを行っており、将来の担い手となる人材育成に貢献してきた。

農業振興センターからのコメント

西村ご夫妻は、施設園芸と土地利用型作物の複合経営による安定した農業経営を実践されている。そうした中でも、ホームページやSNS等を活用した情報発信や飲食店などへのトマトの持ち込み営業など、新しい売り場の創出などに取り組まれており、今後も更なる発展が期待されている。

また、地域の様々な役を引き受け、地域の発展にも貢献されるなど、今後も地域を担うリーダーとしてさらなる活躍を期待する。